

解答

- ① 1 完走 2 未定 3 農夫 4 民族 5 欠点  
6 失礼 7 灯台 8 水辺 9 必死 10 児童
- ② 問一 1 エ 2 ア 3 イ  
問二 1 イ 2 イ 3 イ 4 ウ  
問三 1 はずむ 2 くやしい 3 さしかかる 4 こちよ
- ③ 問一 1 ウナギの数が昔よりも大幅に減っている〔こと。〕 2 イ・エ (くんで不順可)  
問二 ア  
問三 A ア B イ C イ D ア  
問四 イ  
問五 1 I シラス II 親ウナギ 2 節度をもつ  
問六 ウ
- ④ 問一 1 ヘリコプター〔くらの大きさ。〕 2 体にかか〜てしまう〔から。〕(くんで)  
問二 ひと昔前  
問三 エ 問四 ウ  
問五 トンボが〜いるから(くんで)  
問六 1 ④ 2 ① 3 ② 4 ⑥

解説

- ③ 出典は、塚本勝巳「うなぎ 一億年の謎を追う」〈学研教育出版〉。
- 問一 1…指示語の問題です。すぐ前の「わたしたちにとって身近なウナギですが、その数は昔に比べると大幅に減っています」の部分<sup>おほぼへ</sup>をさしていることがわかりましたか。この部分をまとめましょう。  
2…一つ目は、——線①の少しあとに「まず一番の原因<sup>げんいん</sup>は、人がとりすぎ、食べすぎたためです」(3・4行め)とありますからエ。二つ目は文章の後半になりますが、「ウナギが減ったのは、河川環境<sup>かせんかん</sup>が悪くなったことも理由<sup>りゆう</sup>としてあげられます」(25行め)とありますからイがそれぞれ正解です。
- 問二 直前を見ましょう。——線②すぐ前の「ひところ世界のウナギの消費量<sup>しょうひりょう</sup>の七十パーセントを、日本人が食べていたと聞いたら驚く<sup>おどろ</sup>でしょう」(6・7行め)の部分<sup>おほぼへ</sup>をさしていますからアが正解です。
- 問三 空らんA～Dの前の部分がヒントになっています。養殖ウナギは、「天然のシラスを河口<sup>かこう</sup>でとってきて、それにえさをやって大きくしたものです」(11行め)とあり、「養殖だからといって、いくらでもつくれるわけではないのです」(11・12行め)と書かれています。これらを元に「養殖」「天然」を取り違え<sup>ちが</sup>ないようにあてはめることができましたか。
- 問四 それぞれ空らんの前に書かれている内容<sup>ないよう</sup>の当然<sup>とうぜん</sup>の結果<sup>けっか</sup>としての内容が後に書かれているので、「ですから」が入ります。

問五 1…——線③のすぐ前に「天然ウナギはマリアナに帰って産卵し、次の世代のシラスをうむ大切な親ウナギになります」(22行め)とあります。2…「ひかえる」とはとる量をおさえて減らすことです。これと同じ内容の表現を【 】内からさがしてみると、19行めに「節度をもってとらなくてはなりません」という表現が見つかります。「節度をもつ」とは、行き過ぎず、ほどほどに、という意味です。

問六 回遊魚のウナギが移動できなくなって困るのは、「ダムが河川を区切ってしま」うことですから、その内容の後のウに入れるのが適切です。

④ 出典は、海野和男「虫の目になってみた」〈河出書房新社〉。

問一 1…「そんなに」が何を指しているのかは前の段落を読んで考えましょう。6行めに「もしトンボがヘリコプターぐらい大きかったら」とありますね。それを受けての「そんなに大きくなることはできない」ですから、「ヘリコプターぐらい」の大きさが正解になります。2…同じ段落に「それ以上大きくなれば、体にかかる力も大きくなって、大気の中で素早い動きをしたら翅がねじ切れてしまうからだろう」(11・12行め)とありますから、ここからぬき出して答えましょう。

問二 同じ段落の最後に「ひと昔前では考えられなかったようなおもちゃの登場だ」(27行め)とあります。

問三 空らんの前の内容の性能の良さから予測できることと正反対の内容がその後に書かれているので、「けれど」が入ります。

問四 「空中で身を翻すこと」ですから「とんぼ返り」が正解です。「しりきれとんぼ」とは、物事が途中で終わってしまうことです。

問五 理由は——線③のすぐ後にあります。「それはトンボが昆虫の中では視力に優れ、私たちと共通する世界認識を持っているからかもしれないと思う」(34・35行め)からぬき出しましょう。

問六 それぞれの段落の中心文に着目し、何について書かれているのかを読みとりましょう。